


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 2 月 23 日	
所属部局・職	霊長類研究所社会生態分科・博士後期課程学生
氏名	石塚真太郎

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
香川県小豆島
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
小豆島のニホンザルにおけるオスの繁殖戦略についての調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 2 月 15 日 ~ 平成 30 年 2 月 18 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
銚子溪 自然動物園 お猿の国
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の調査では、①春以降に生まれてくる赤ん坊の出産日の記録方法を飼育係と相談すること②識別個体の群れ在籍を確認することであった。①については、飼育員が皆とても協力的で、非常にありがたかった。海外だけでなく国内でも、地元の人との関係は野外調査を行う上で大切だと思う。別のプロジェクトの研究も進める必要があるため、赤ん坊の出産期にずっと滞在することはできないが、これからもできるだけ継続的に訪れ、自分の目でも確認していきたい。②については、前回調査地を離れる時に確認していた個体は全て確認できた。一方で、前回の調査時に消失したメスが繁殖期の終わりとともに群れに帰ってくることを期待していたが、こちらは期待はずれだった。これもフィールドワークの経験のうちと思いき、これからも継続して調査をしていきたい。

A 群の第 1 位オスである団十郎。交尾期に見られた顔の赤さがほとんどなくなっていた。
6. その他 (特記事項など)
本実習は、PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて遂行できました。PWS プログラム、銚子溪自然動物園お猿の国の皆様に感謝申し上げます。